

「子供たちの未来づくり」①

〜キャリア教育のめざすもの〜



キャリア教育とは、「何のために学ぶのか」として「何のために働くのか」という問いかけを、先生方や回りの大人たちが、様々な場面で、子供たちに繰り返し繰り返し問いつづけていくことではないかと思っ。

しかしながら現実起きてしまいがちなことは、少しでも成績を上げて欲しいとか、テストの点数が高くなりさえすれば、進学も将来の就職も有利になるんだから、と子供たちに迫る親たちの姿である。我が子の将来をいつも心配している親心としては当然のことかもしれない。だからつい直接的にそのような言葉になってしまう。

一方、子供たちの立場になってみると、成績を上げるための勉強ほど面白くないものはないのかもしれない。また、仮に成績が上がって得られるという進学先や就職先についても、魅力的なイメージを描くことができなないかもしれない。

そもそも、将来どんな仕事をするかが魅力的なのか、世の中の大人はどんな思いで仕事をしているのか、聞いたことも考えたこともないので具体的なイメージを描くことは不可能に近い。

この連鎖がつづく限り、親や大人の願いと、子供たちの現実とのギャップは永遠に埋まらないだろうと思っ。ではどうしたらいいのだろうか。順番を逆にしたらどうだろうか。

つまり、当面の目先の勉強にだけ目を向けるのでなく、遠回りになるかもしれないが、将来社会に出た時にどんな仕事をして生きていきたいかということを、子供たちに考えさせ徹底して悩ませるのである。そんなに長い時間をかけなくてもいい。徹底して考え悩む時間を少しだけでもいいので作ってやるのである。おそらく最も大事なポイントは大人が真剣に本気で向き合うことだと思っ。「ちよつと考えてみたら」といった他人事みたいな態度ではきつと子供たちの心には響かない。

そしてもう一つのポイントは、親より他人の大人が語ることもかもしれない。よその大人が本気で話すことには、子供たちは間違いない。一旦は聞く耳を持つはずである。

文／日向市キャリア教育支援センター長

水永 正憲